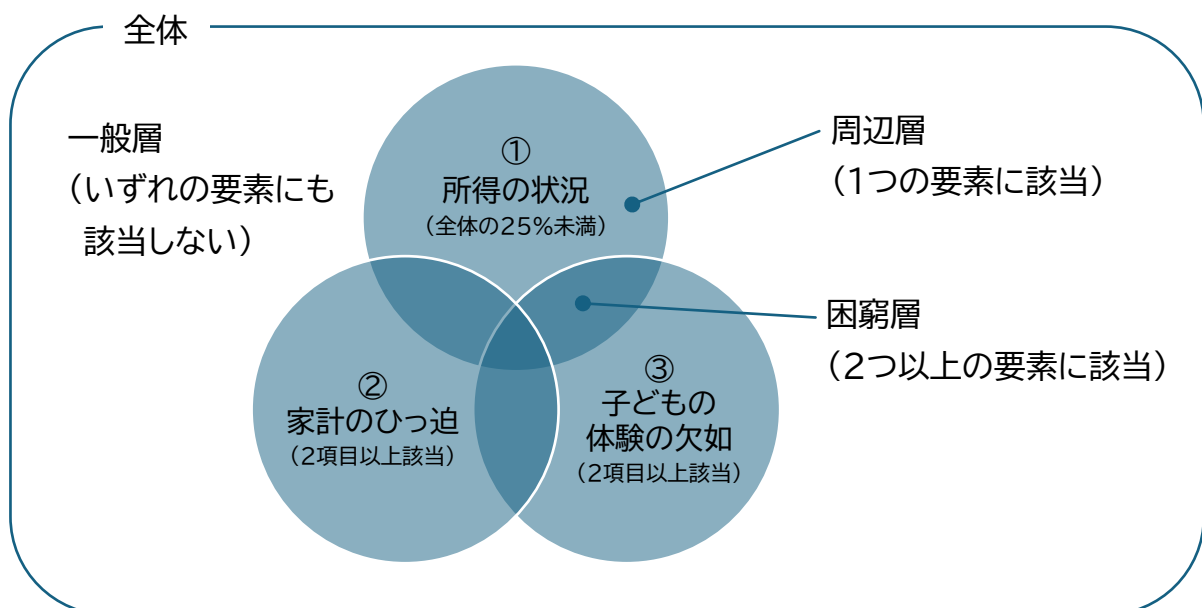


3-1. 子どもの生活実態調査(小5・中2相当年齢の児童)

(1)回答者の属性について

- ① 収入の水準による分類所得による影響を分析するため、『等価世帯収入』の「中央値以上」、「中央値の2分の1以上中央値未満」、「中央値の2分の1未満」に分類し、分析を行った。『等価世帯収入』の算出は、以下の算出方法に沿って行っている。
 - (ア) 保護者対象調査の問31(世帯全体のおおよその)に対する回答の各選択肢の中間の値を、その世帯の収入の値とする。(例えば、「50 万円未満」であれば 25 万円、「50～100 万円未満」であれば 75 万円とする。なお、「1000 万円以上」は 1050 万円とする。)
 - (イ) (ア)の値を、保護者対象調査の問4で把握される同居家族の人数の平方根をとったもので除す。(等価世帯収入＝世帯の年間収入÷ $\sqrt{\text{世帯人数}}$)
 - (ウ) (イ)の方法で算出した値(等価世帯収入)の中央値を求め、さらに、その2分の1未満であるか否かで分類する。
- ② 問32(家計のひっ迫)において、2項目以上の回答があるか否かで分類する。
- ③ 問33(子ども体験の欠如)において、2項目以上の回答があるか否かで分類する。
- ④ 上記の①～③により次のとおり生活困難度を集計する。

一般層	①②③いずれの要素にも該当しない
周辺層	①②③のいずれか1つの要素に該当
困窮層	①②③のうち2つ以上の要素に該当

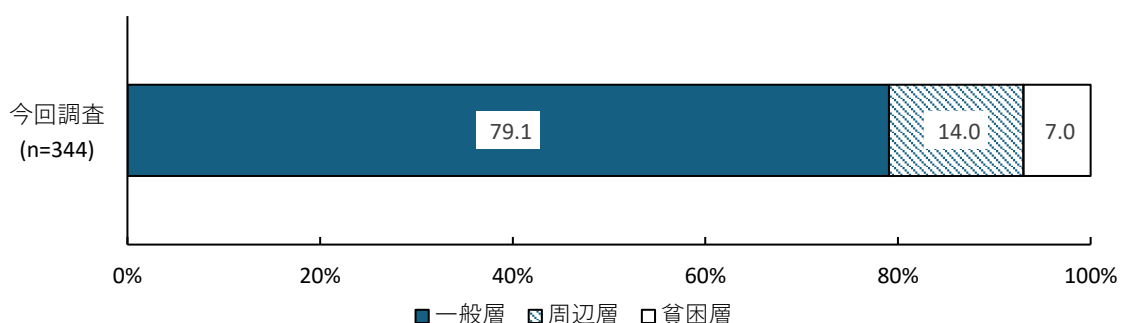


※ 回答があった子ども分465票、保護者分344票のうち、子どもと保護者がマッチングできたのは195票であった。本報告書においては、子ども票のみからの項目の集計の際には、子ども票の全サンプル、保護者票の項目とのクロス集計の場合はマッチングができた票のみを集計の対象とする。また、マッチングができた票の回答数の合計が30未満であるものについては、本報告書に掲載しない。

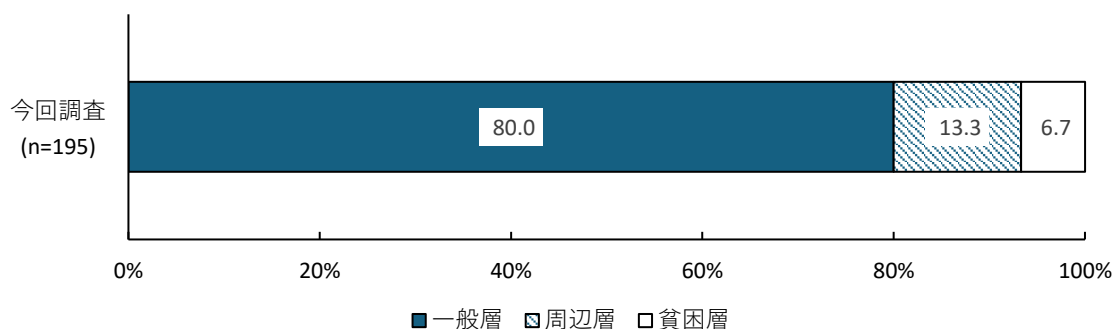
<結果を記載>

保護者：一般層は272件(79.1%)、周辺層は48件(14.0%)、困窮層は24件(7.0%)

回答 保護者の生活困難度(小5・中2相当年齢の児童の保護者)



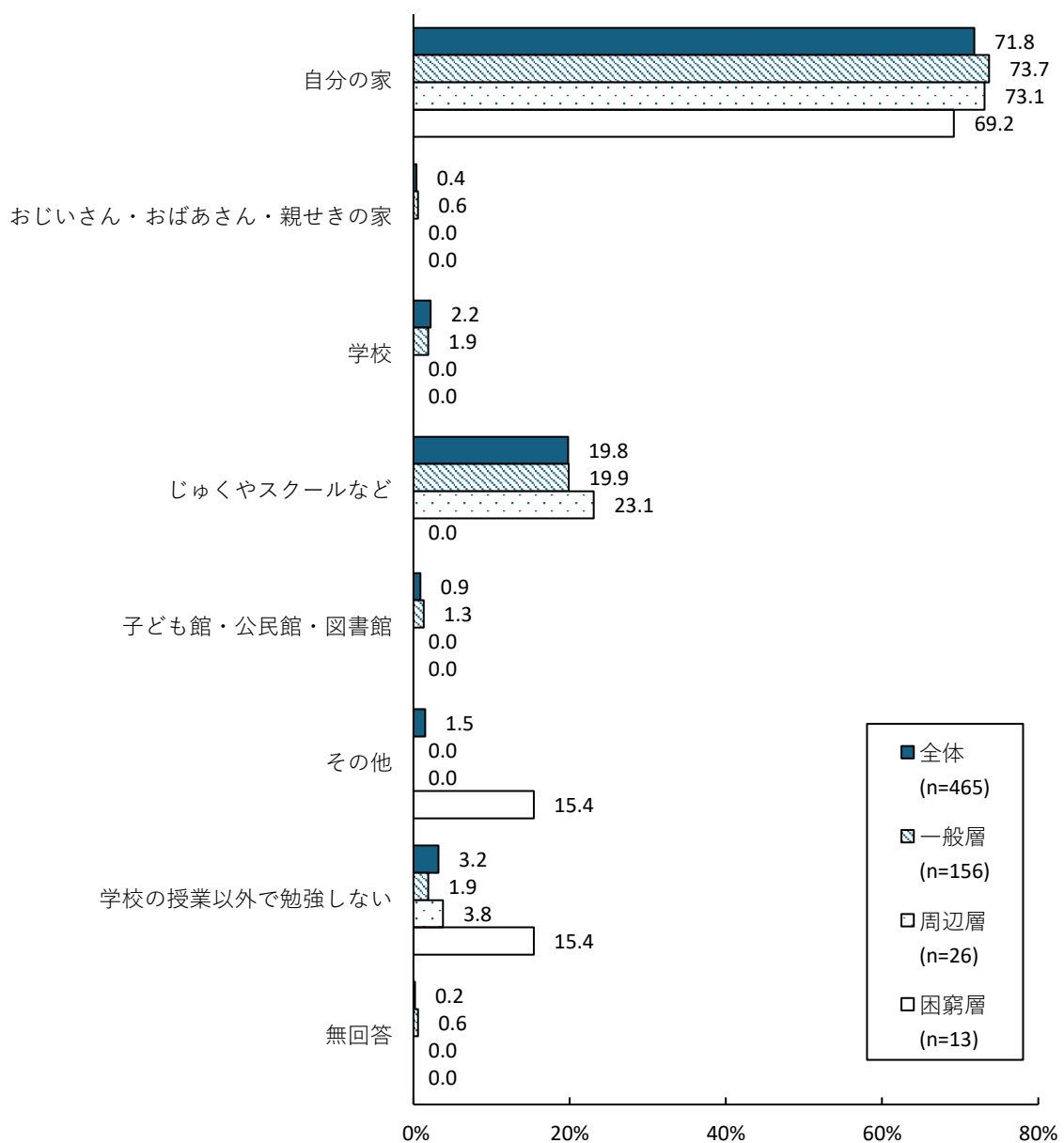
子ども：一般層は156件(80.0%)、周辺層は26件(13.3%)、困窮層は13件(6.7%)



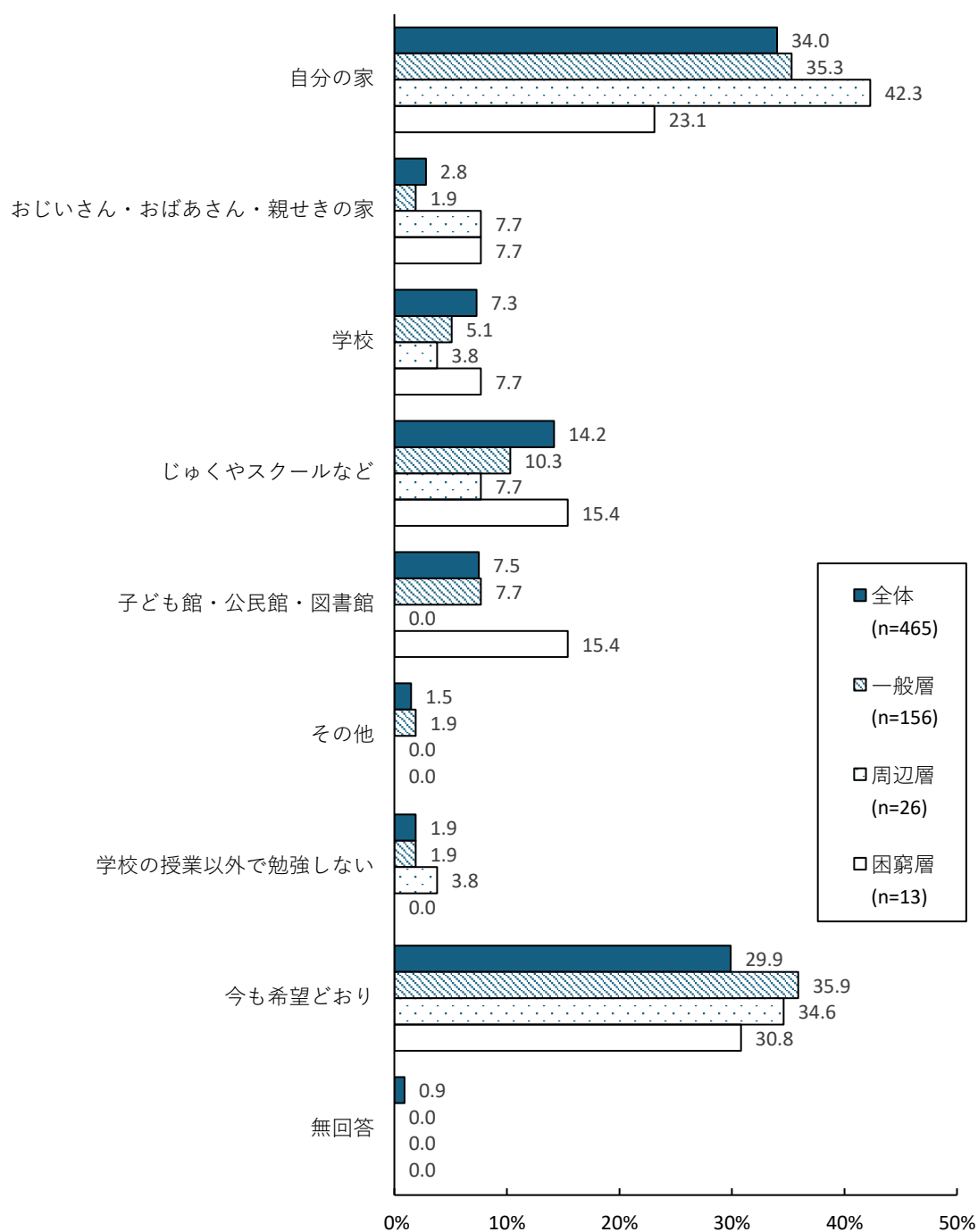
(2)学校以外の過ごし方について

- ① 学校以外に勉強する場所は、全体では、「自分の家」が71.8%と最も多く、次いで「じゅくやスクールなど」が19.8%であった。なお、生活困難度別にみると、「困窮層」の世帯では「じゅくやスクールなど」の回答がなかった。また、「本当はどこで勉強したいか」の問いに対し、「じゅくやスクールなど」と回答した割合は、「困窮層」の世帯の回答割合が他と比較して高い状況であった。【問4】

図表 学校以外に勉強する場所(小5・中2相当年齢の児童)【複数回答】

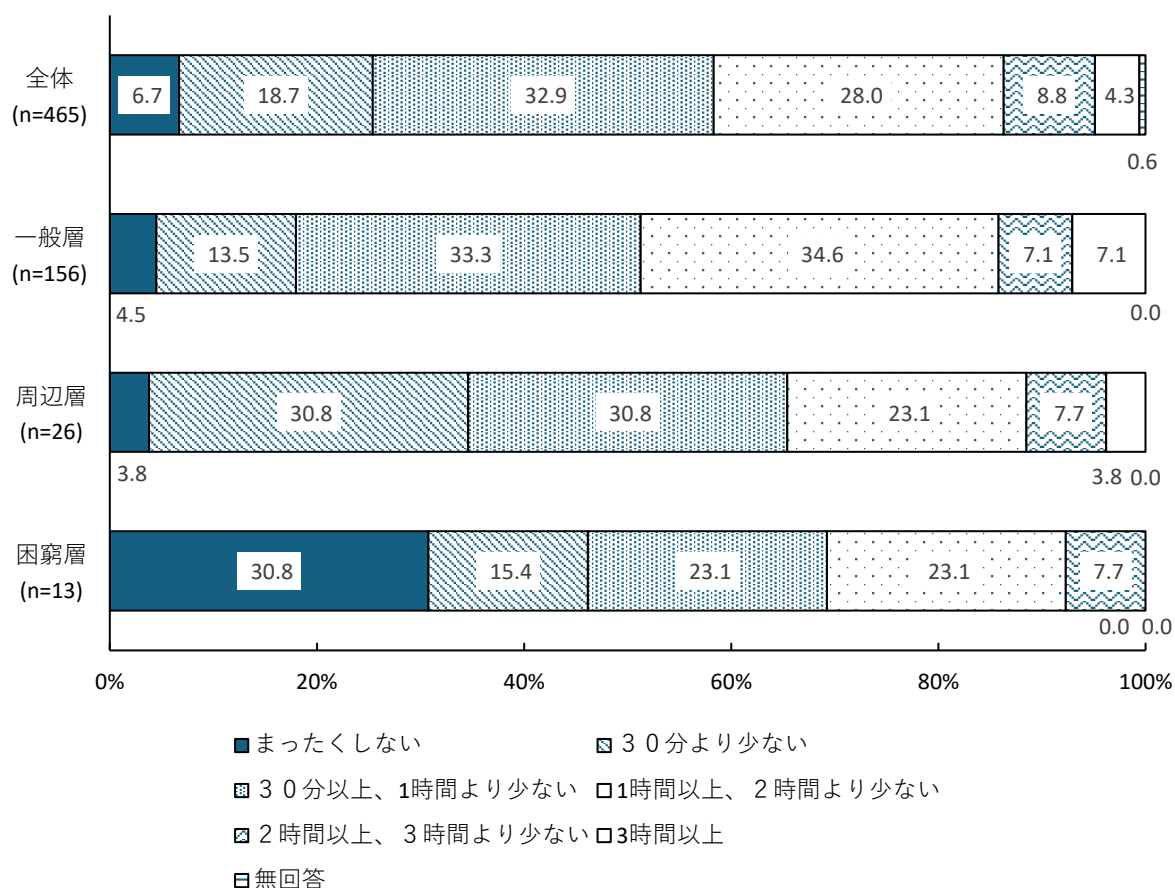


図表 学校以外に勉強したい場所(小5・中2相当年齢の児童)【複数回答】



- ② 平日、学校の授業以外に、ふだん一日あたりどのくらい勉強するかの問いに対しては、生活困難度別にみると、「周辺層」の世帯では「30分より少ない」が最も多く、全体の回答よりも短い結果であった。「一般層」の世帯では「30分以上、1時間より少ない」が最も多かった。なお、「困窮層」の世帯では、他の所得水準よりも勉強時間が少ない傾向にある。【問5(1)】

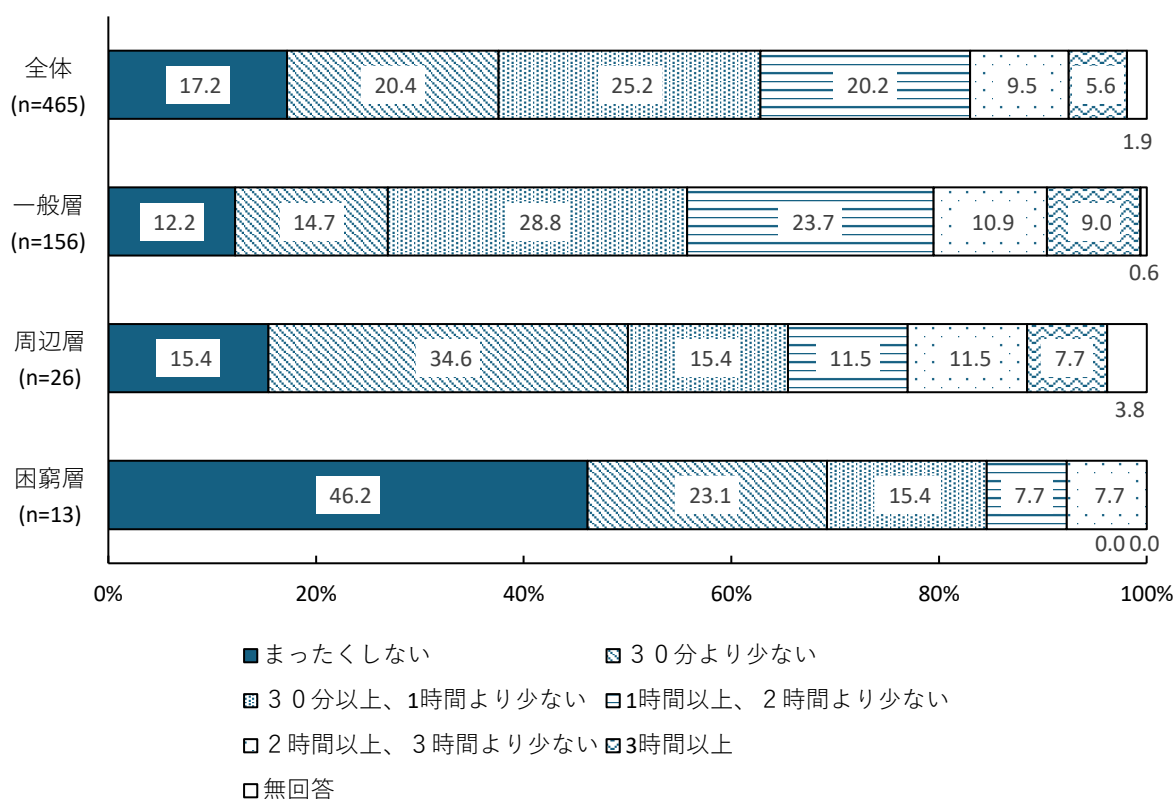
図表 平日の学校の授業以外の勉強時間(小5・中2相当年齢の児童)【単数回答】



- ③ 学校がない日（土・日・祝日）の勉強時間については、「一般層」の世帯では「30分以上、1時間より少ない」の回答が最も多く、全体の回答結果と同様であった。「周辺層」の世帯では、「30分より少ない」が最も多かった。なお、「困窮層」の世帯では、平日の状況と同様に他の所得水準よりも勉強時間が短い傾向にある。

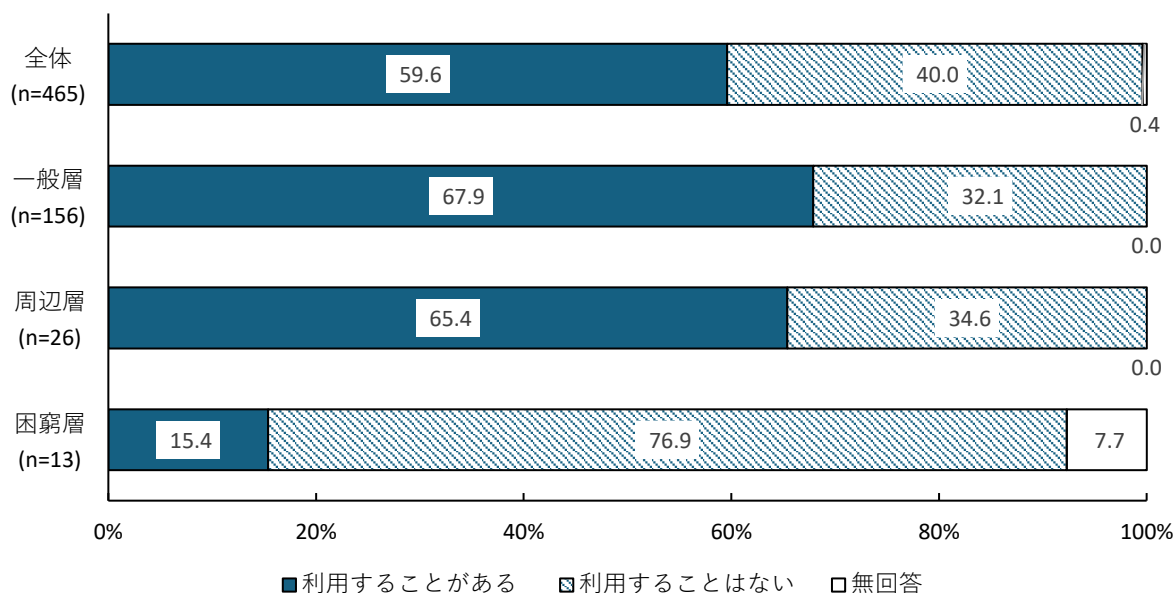
【問5(2)】

図表 学校がない日の勉強時間(小5・中2相当年齢の児童)【単数回答】



- ④ 学校の勉強以外の塾や家庭教師、通信教材の利用状況は、全体については「利用することがある」が 59.6%となった。これに対し、生活困難度別にみると、困窮層の世帯では、「利用することがある」が 15.4%にとどまった。【問12】

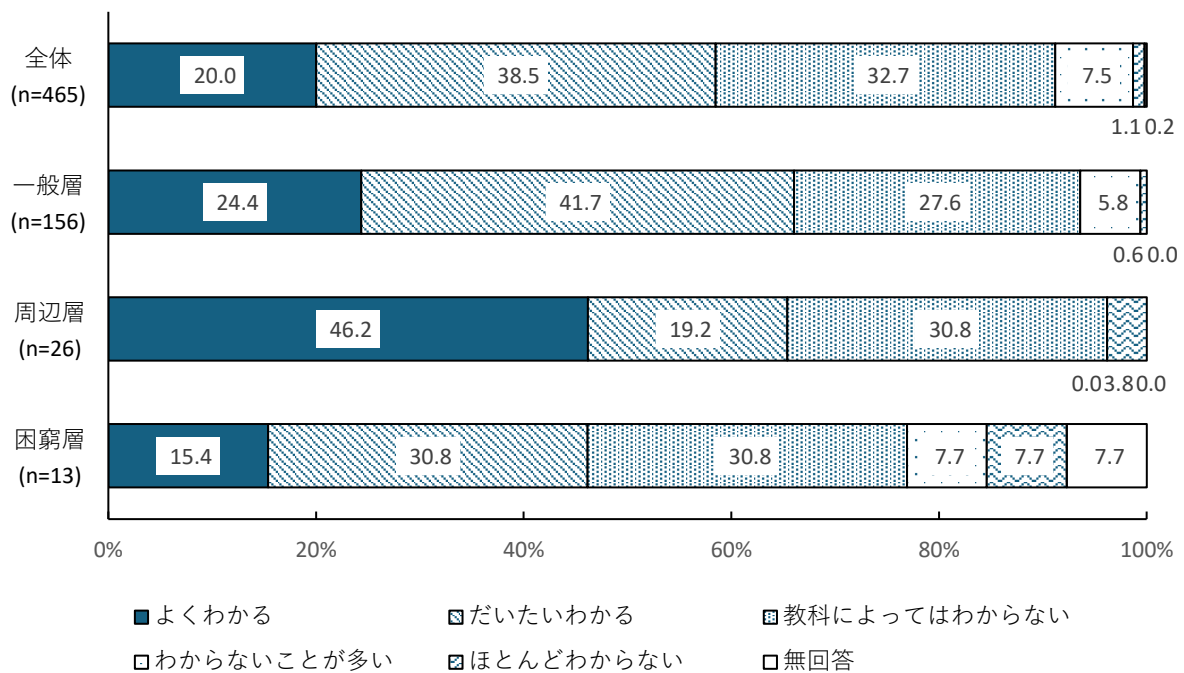
図表 塾や家庭教師、通信教材の利用状況(小5・中2相当年齢の児童)【単数回答】



(3)学校生活について

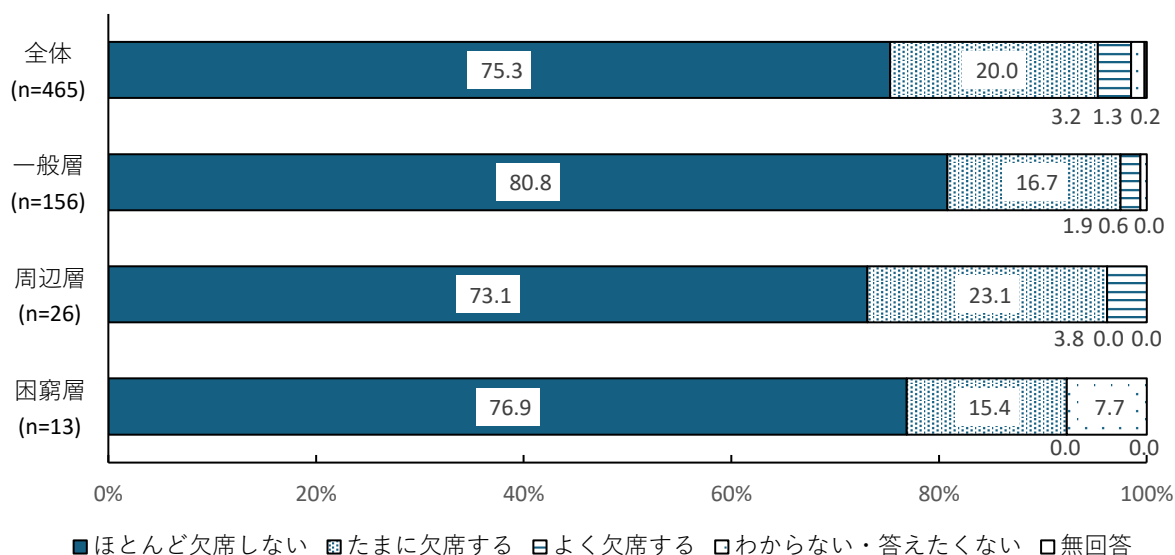
- ① 学校の勉強がわからないことがあるかとの問いに対しては、「教科によってはわからないことがある」、「わからないことが多い」及び「ほとんどわからない」を合わせた割合が、全体では、41.3%であった。なお、生活困難度別でみると、「一般層」の世帯では 34.0%、「周辺層」の世帯では 34.6%、「困窮層」の世帯では 46.2%と、収入等の水準が低い層ほど回答率が高くなる傾向がみられた。【問6】

図表 学校の勉強の理解度(小5・中2相当年齢の児童)【単数回答】

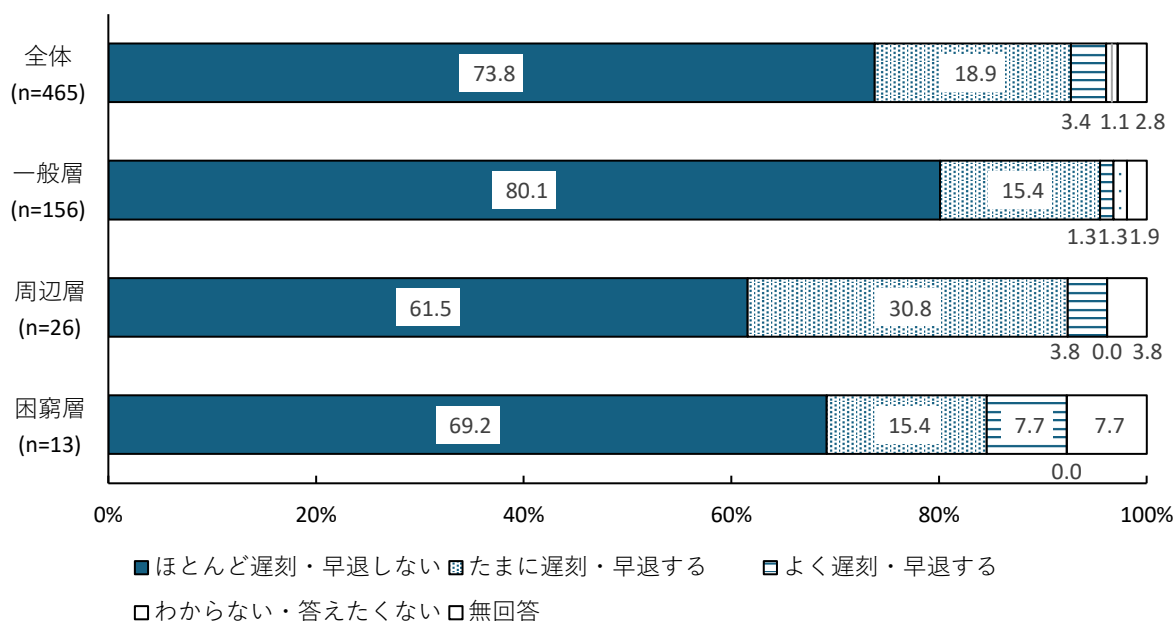


- ② 欠席及び遅刻等の状況について、生活困難度別にみると、欠席については「ほとんど欠席しない」、遅刻・早退については「ほとんど遅刻・早退しない」が、いずれの世帯でも最も多くなっているが、「周辺層」及び「困窮層」の世帯では、「一般層」と比べて欠席または遅刻・早退する割合が高くなる傾向が見受けられる。【問8】

図表 欠席の状況(小5・中2相当年齢の児童)【単数回答】

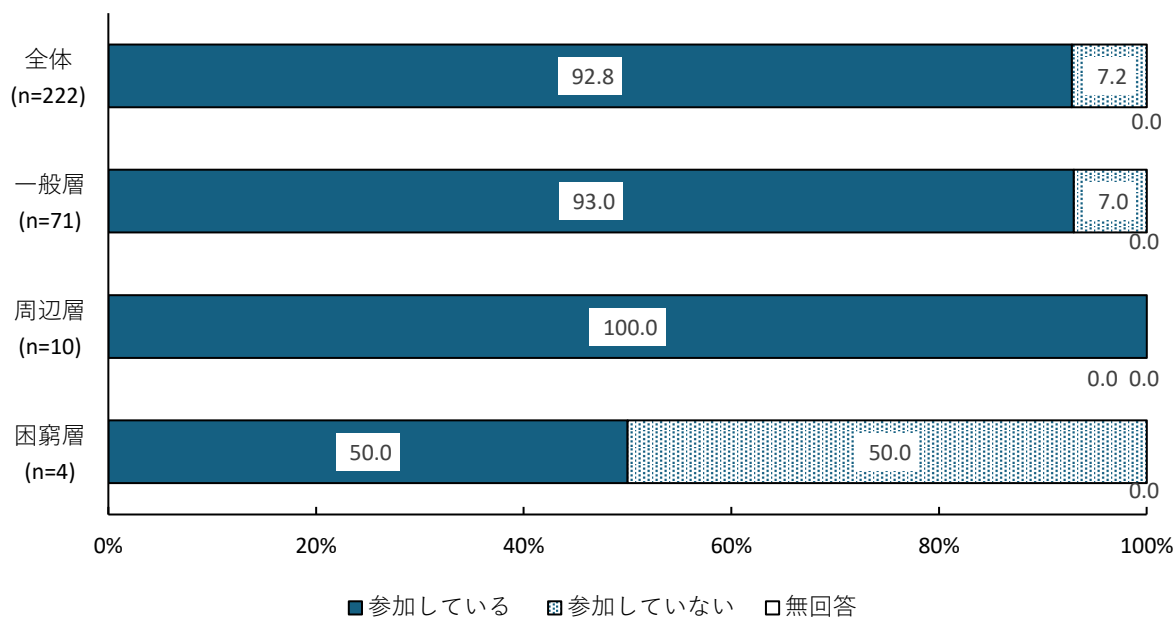


図表 遅刻・早退の状況(小5・中2相当年齢の児童)【単数回答】



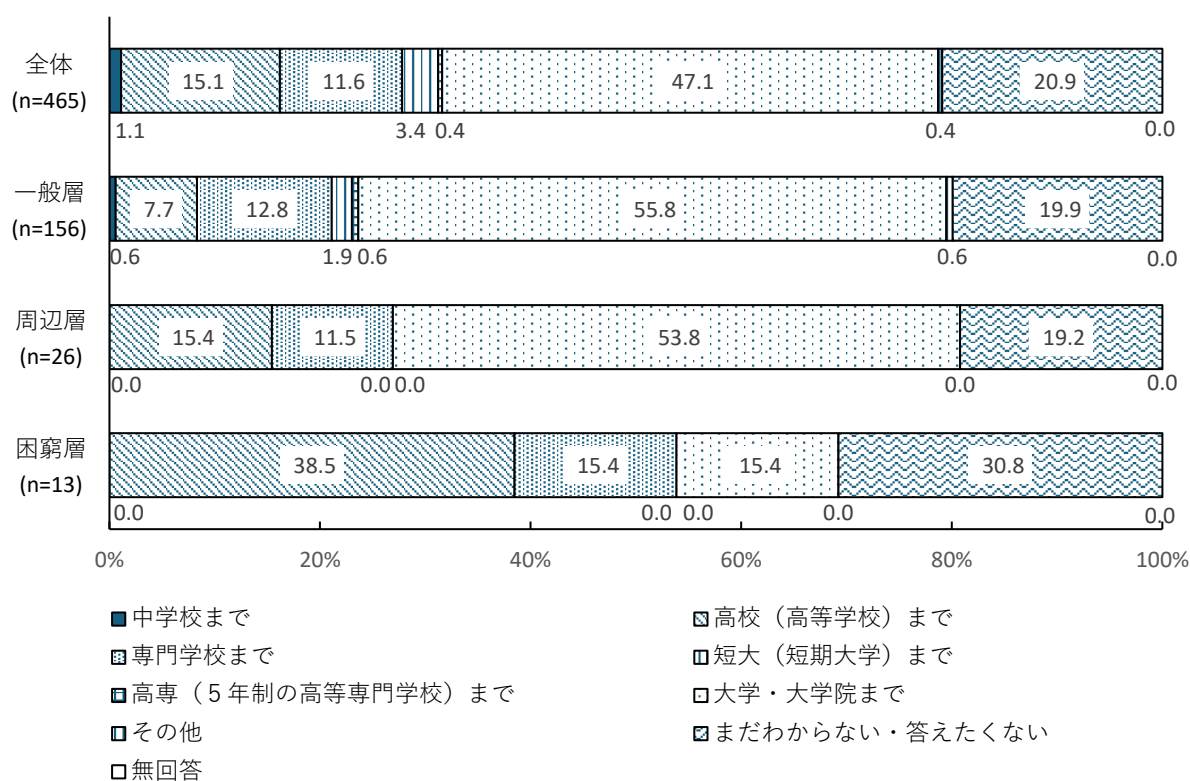
③ 部活動(クラブ活動)への参加状況について、全体で 92.8%の参加率となっている。【問16】

図表 部活動(クラブ活動)への参加状況(小5・中2相当年齢の児童)【単数回答】



- ④ 進学希望は、全体では、「大学・大学院まで」が47.1%、次いで「まだわからない・こたえたくない」が20.9%となっている。生活困難度別にみると、「一般層」の世帯では「大学・大学院まで」が最も多く55.8%となっている。また、「周辺層」の世帯でも「大学・大学院まで」が最も多くなっているが、「一般層」の世帯に比べて当該回答率が低くなっている。また、「困窮層」では、「高校まで」と回答する割合が、最も多くなっている。【問10】

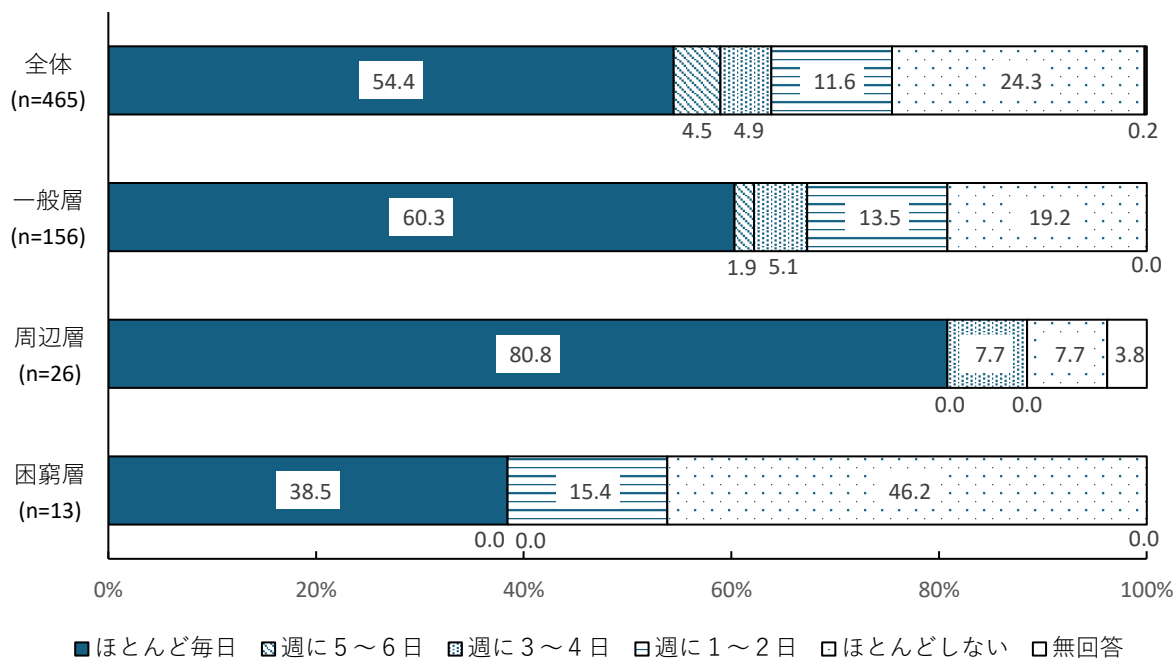
図表 進学希望(小5・中2相当年齢の児童)【単数回答】



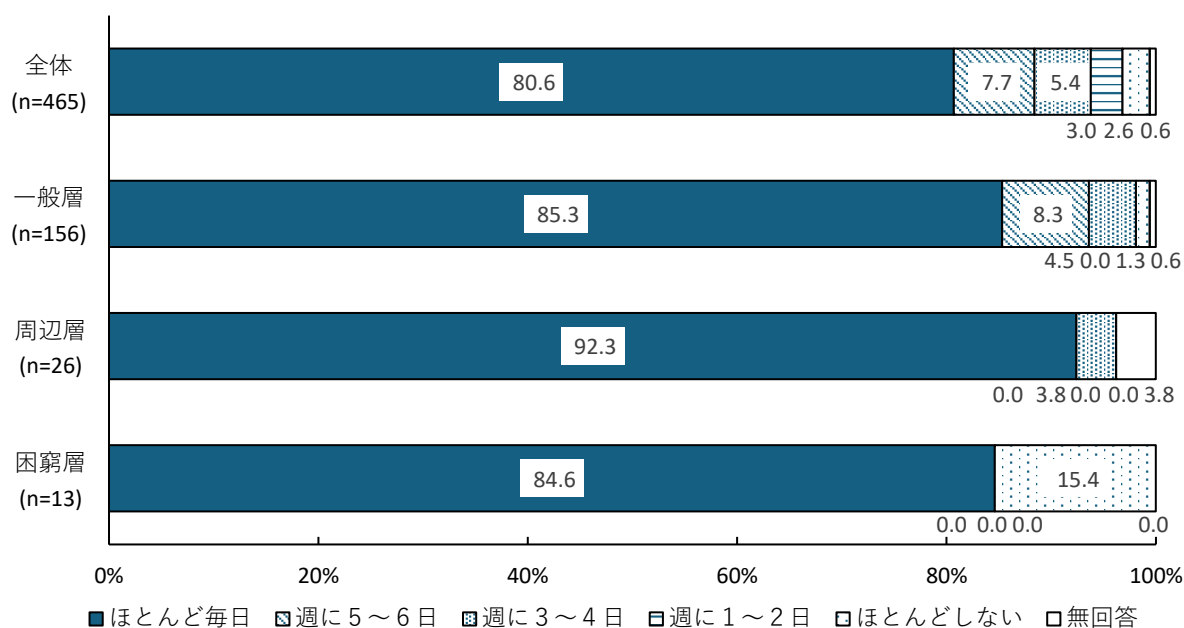
(4)家族とのかかわり等について

- ① 家族(大人の人)と食事を一緒にする頻度は、全体では朝食が54.4%、夕食が80.6%であった。なお、生活困難度別にみると、「周辺層」及び「困窮層」の世帯において、一緒に食事をしない割合が高くなっている。【問18(1),(2)】

図表 家族(大人の人)と朝食を一緒にとる頻度(小5・中2相当年齢の児童)【単数回答】

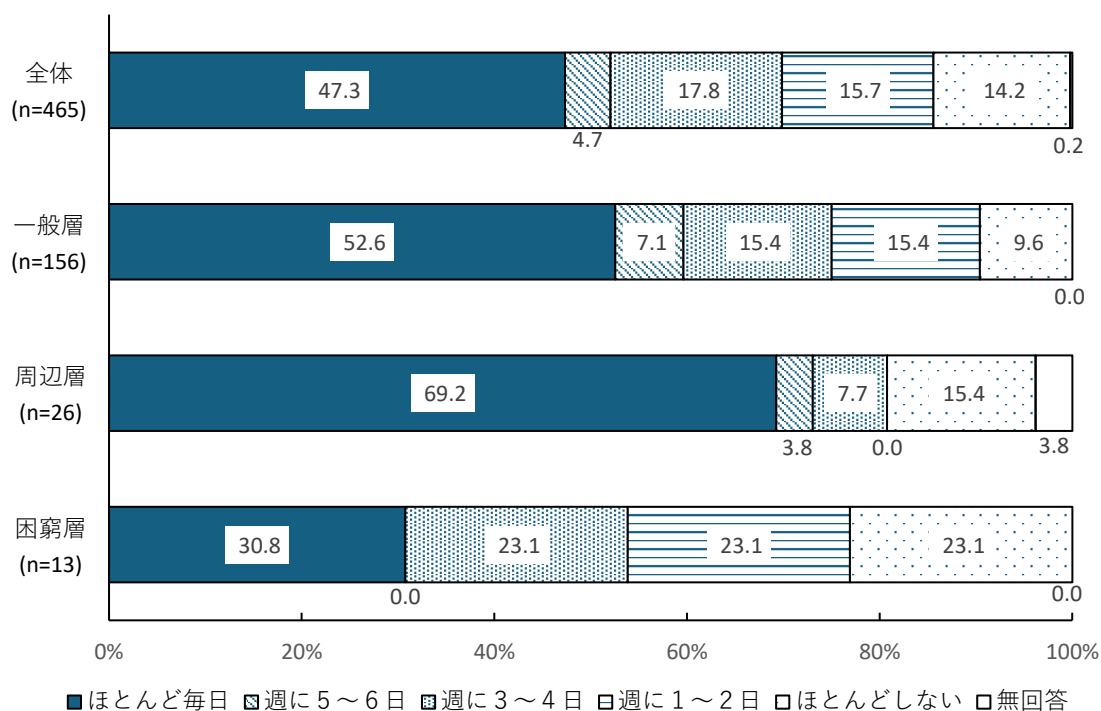


図表 家族(大人の人)と夕食を一緒にとる頻度(小5・中2相当年齢の児童)【単数回答】



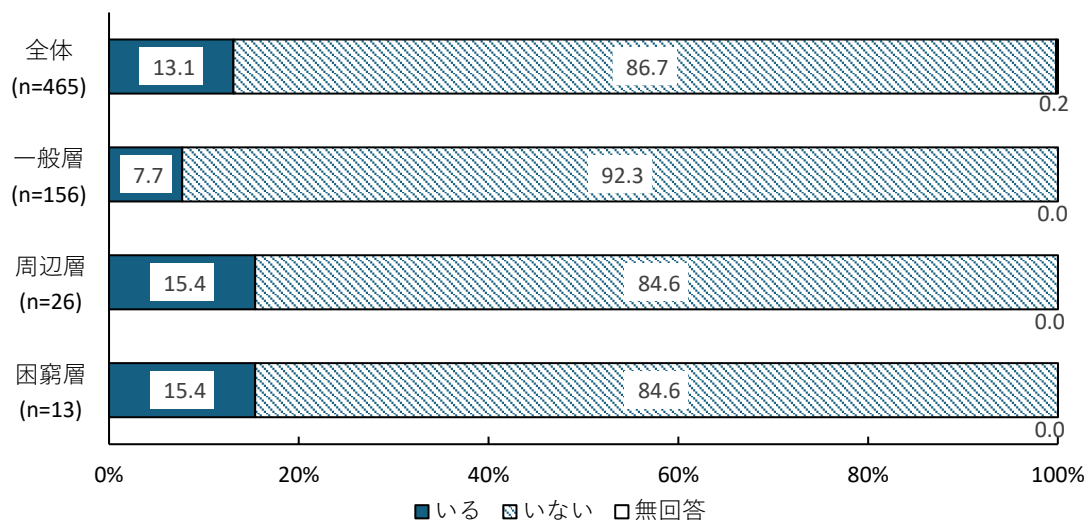
- ② 家族と学校や友だちの話をする頻度は、「ほとんど毎日」が最も多く、次いで「週に3～4日」となっている。【問 18(6)】

図表 家族と学校や友だちの話をする頻度(小5・中2相当年齢の児童)【単数回答】

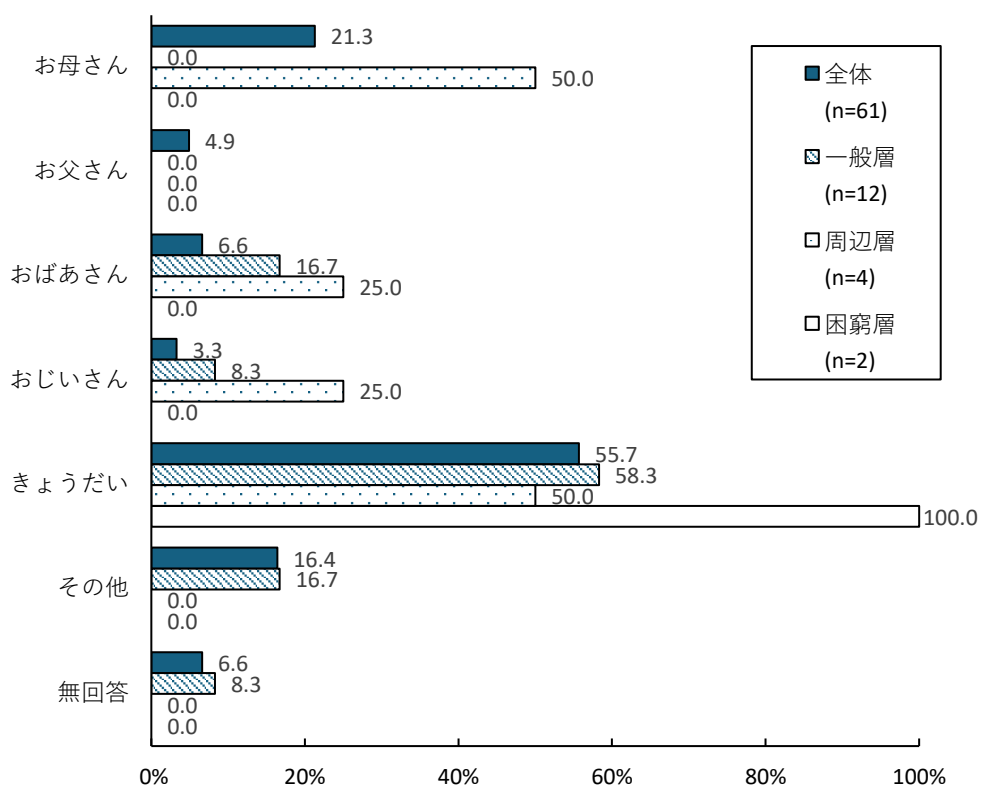


- ③ 自身が中心となってお世話をしている家族の有無については、全体については、「いる」が13.1%となっている。お世話をしている家族がいる方のうち、「きょうだい」を世話している割合が最も多く、次いで「お母さん」となっている。また、お世話の内容は、「家事」が最も多く、次いで「きょうだいの世話等」、「見守り」となっている。
【問 22,23,24】

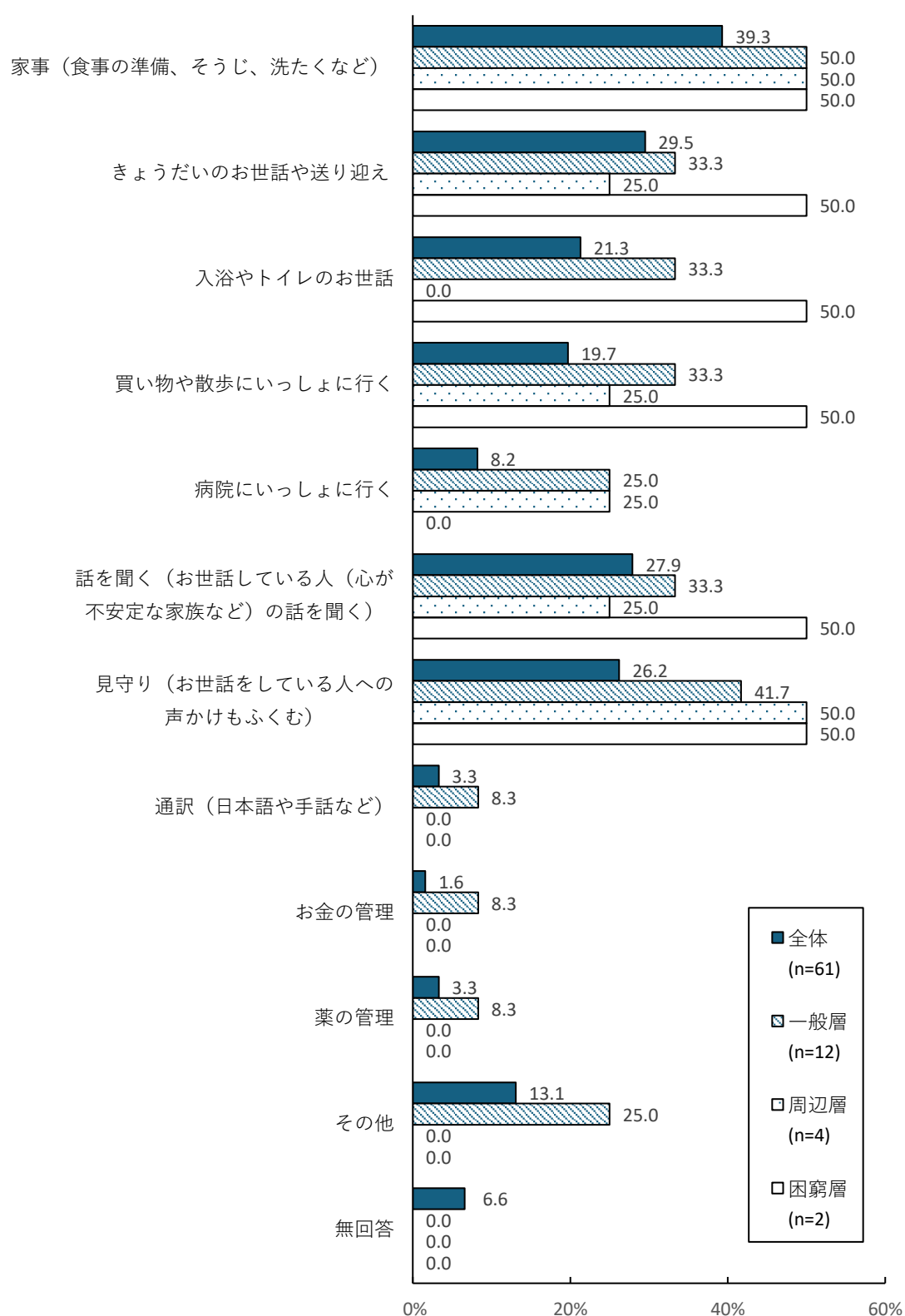
図表 自身が中心となってお世話をしている人の有無
(小5・中2相当年齢の児童)【単数回答】



図表 お世話をしている人(小5・中2相当年齢の児童)【複数回答】



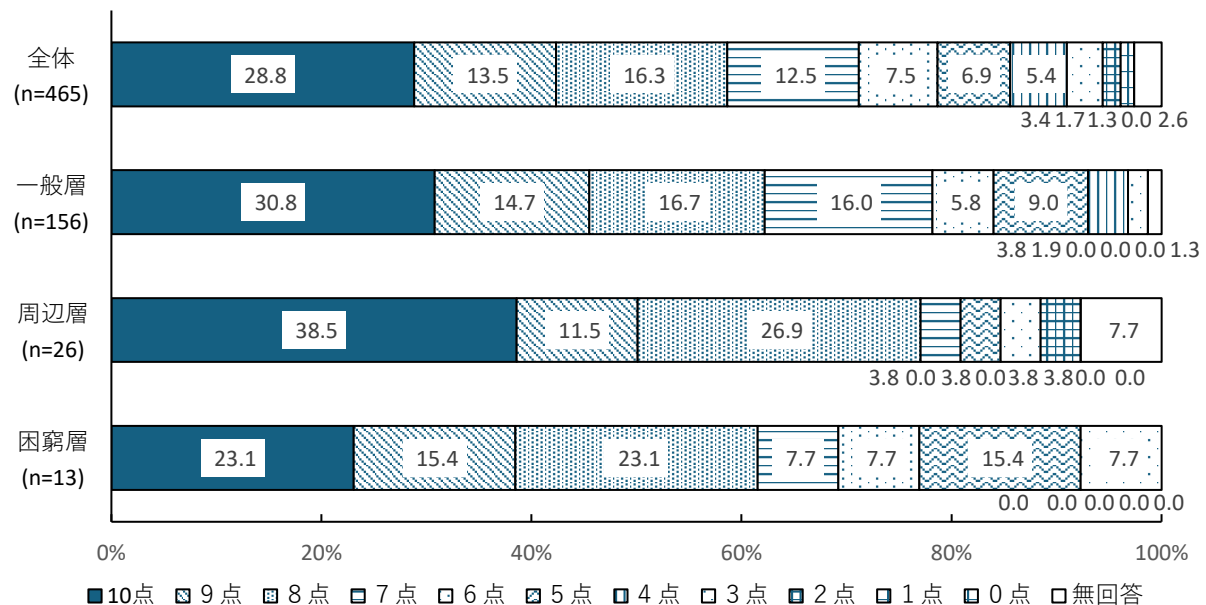
図表 お世話の内容(小5・中2相当年齢の児童)【複数回答】



(5) 幸福感・困ったとき等について

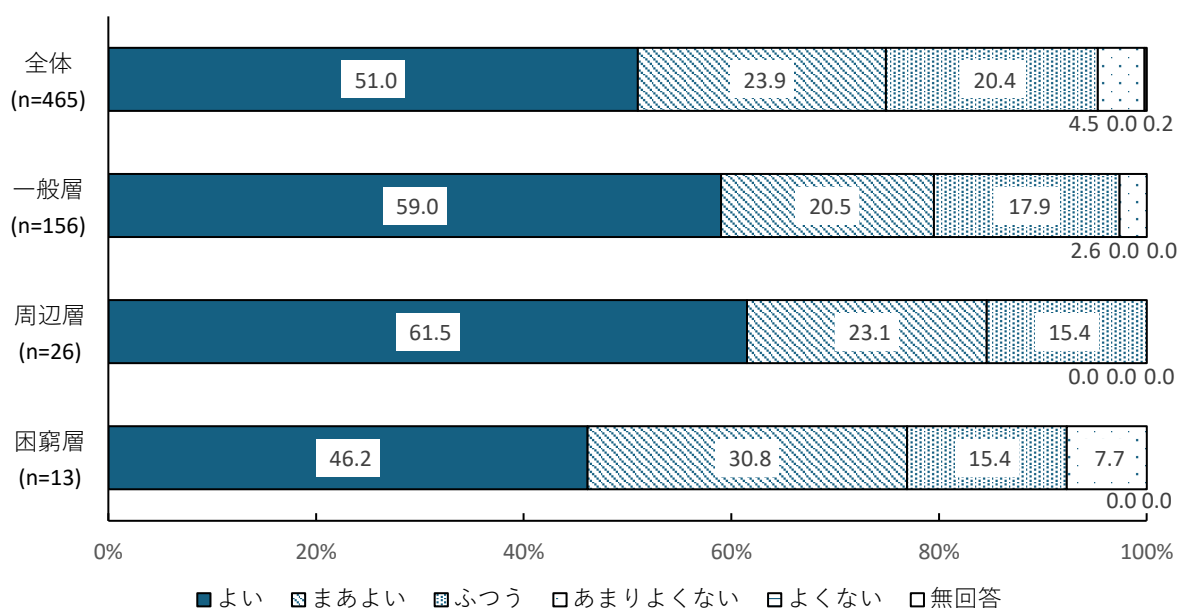
- ① 生活の満足度については、全体では、「10点」が28.8%と最も多く、次いで「8点」、「9点」、「7点」の順であった。「6点」以上を選択して回答した割合は、全体で78.6%となっている。【問32】

図表 最近の生活の満足度(小5・中2相当年齢の児童)【単数回答】



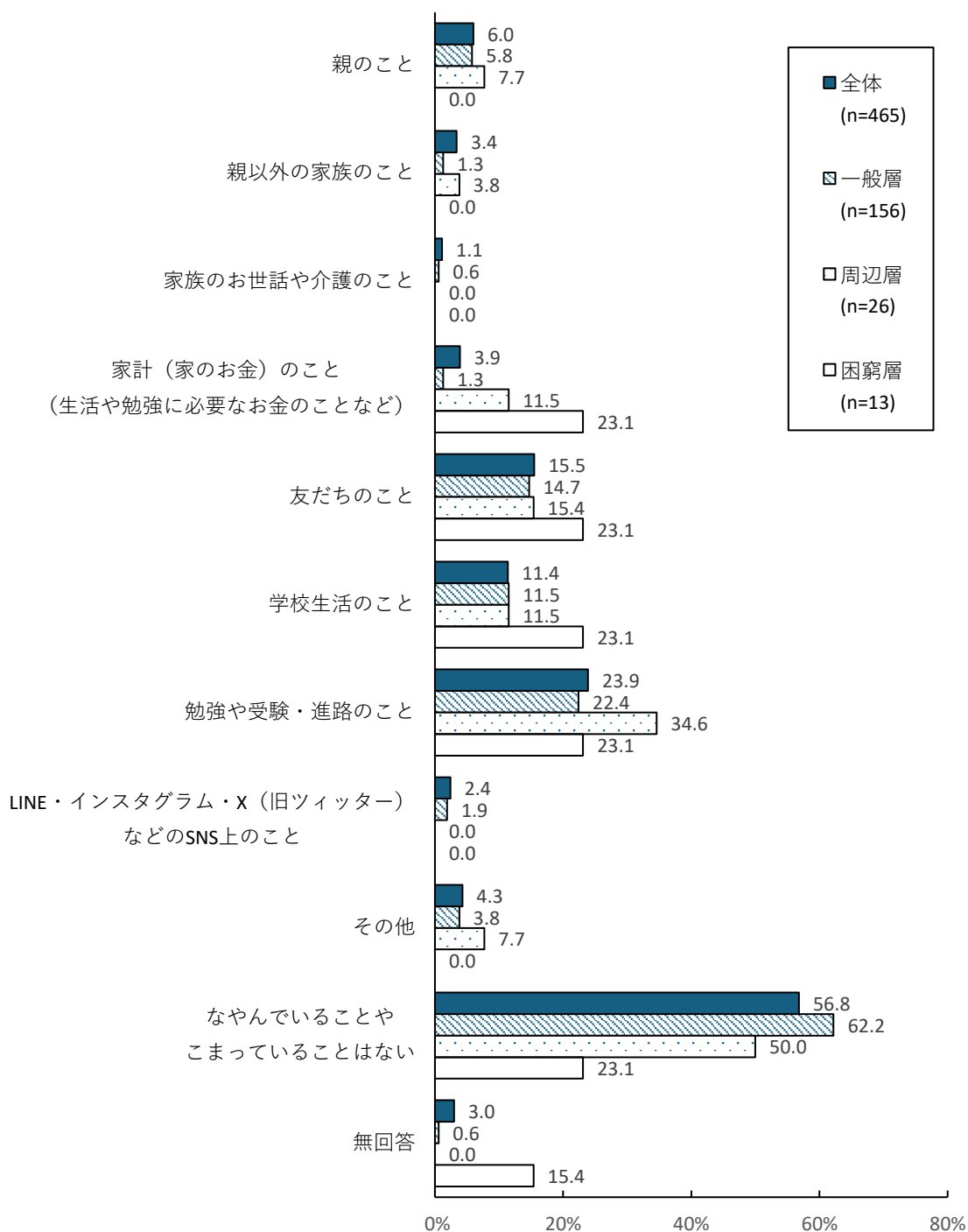
- ② 健康状態については、「よい」と「まあよい」を合わせた割合が約75%となっている。収入等の水準別でも大きな差異はみられなかった。【問33】

図表 現在の健康状態(小5・中2相当年齢の児童)【単数回答】



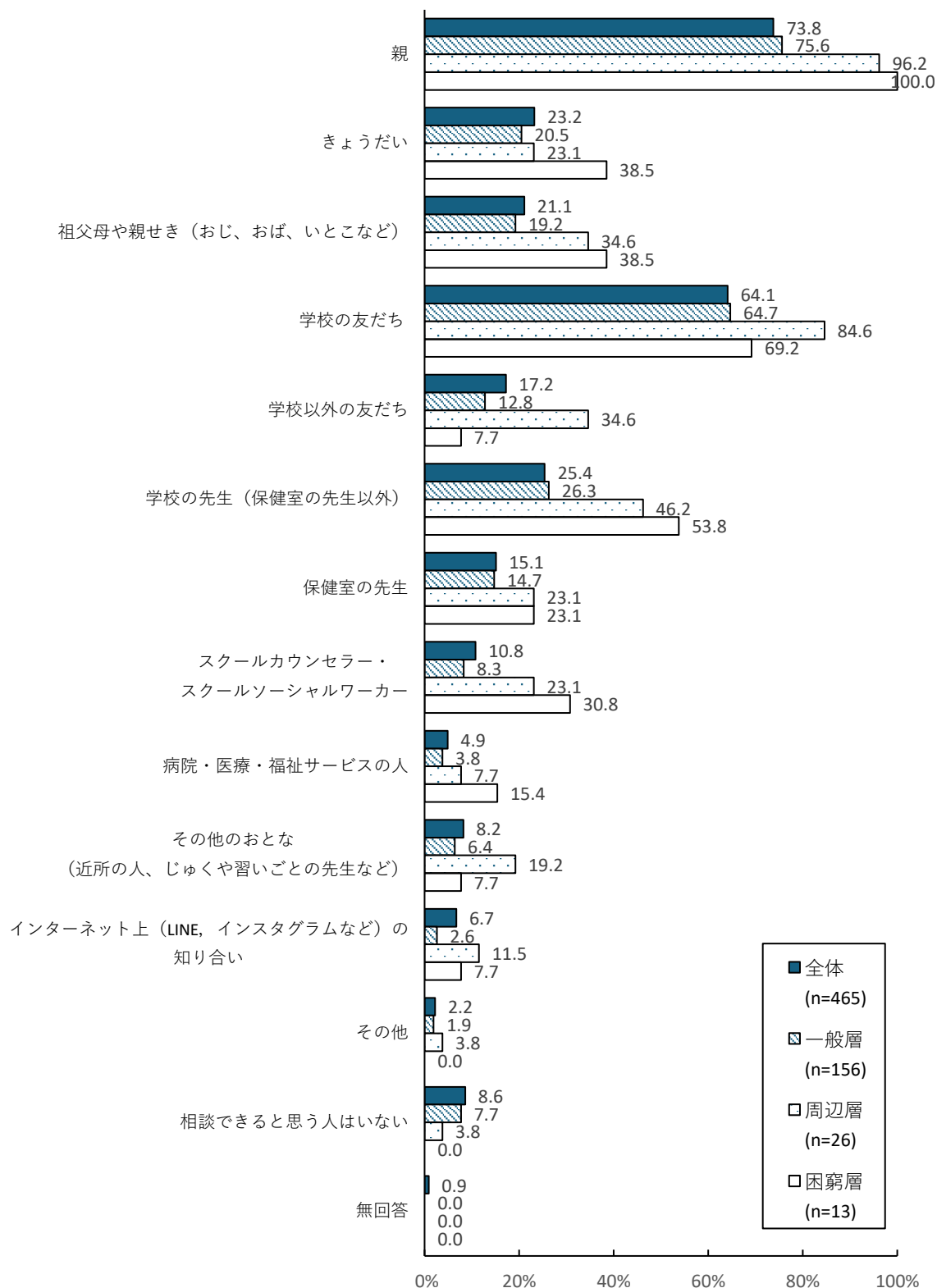
- ③ 「困っていること」について、「なやんでいることやこまっていることがない」と回答した割合が 56.8%である一方、「なやんでいることや困っていること」として、「勉強や受験・進路のこと」と回答した割合が 23.9%、「友だちのこと」と回答した割合が 15.5%、「学校生活のこと」と回答した割合が 11.4%となっている。【問35】

図表 困っていること(小5・中2相当年齢の児童)【複数回答】



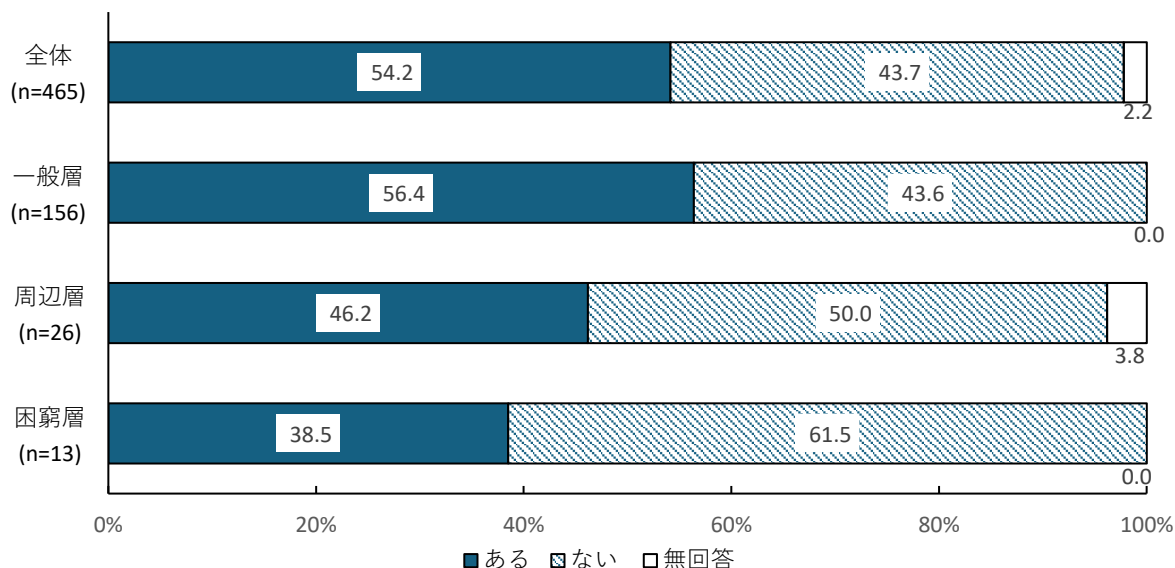
- ④ 「困ったときに相談したり悩みを相談できると思う人」については、全体では、「親」が73.8%と最も多く、次いで「学校の友だち」が64.1%であった。なお、「学校の先生(保健室の先生以外)」は25.4%、「保健室の先生」が15.1%となっている。
【問36】

図表 困った時の相談相手(小5・中2相当年齢の児童)【複数回答】

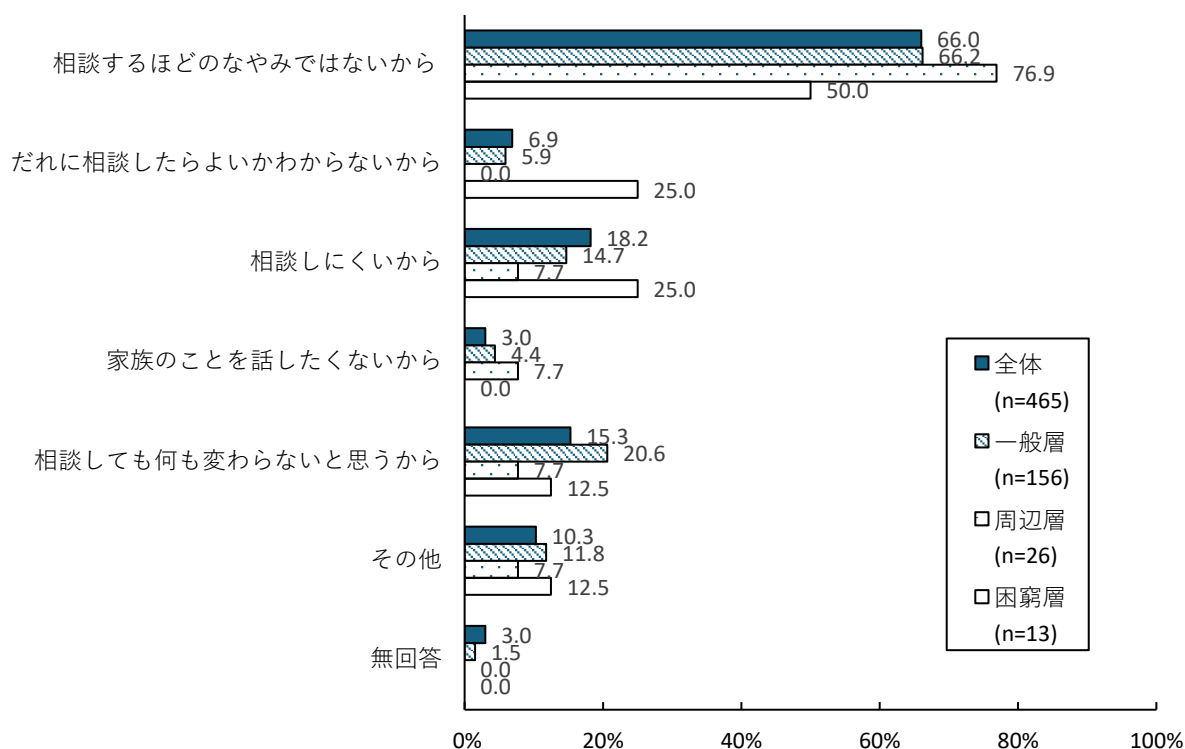


- ⑤ 「困ったときに相談したことがあるか」については、「ある」が 54.2%、「ない」が 43.7%となっている。相談しない理由については、全体で「相談するほどの悩みではない」が 66.0%である一方、「相談しにくいから」が 18.2%、「相談しても変わらないと思うから」が 15.3%となっている。【問37,38】

図表 困った時に相談した経験の有無(小5・中2相当年齢の児童)【単数回答】

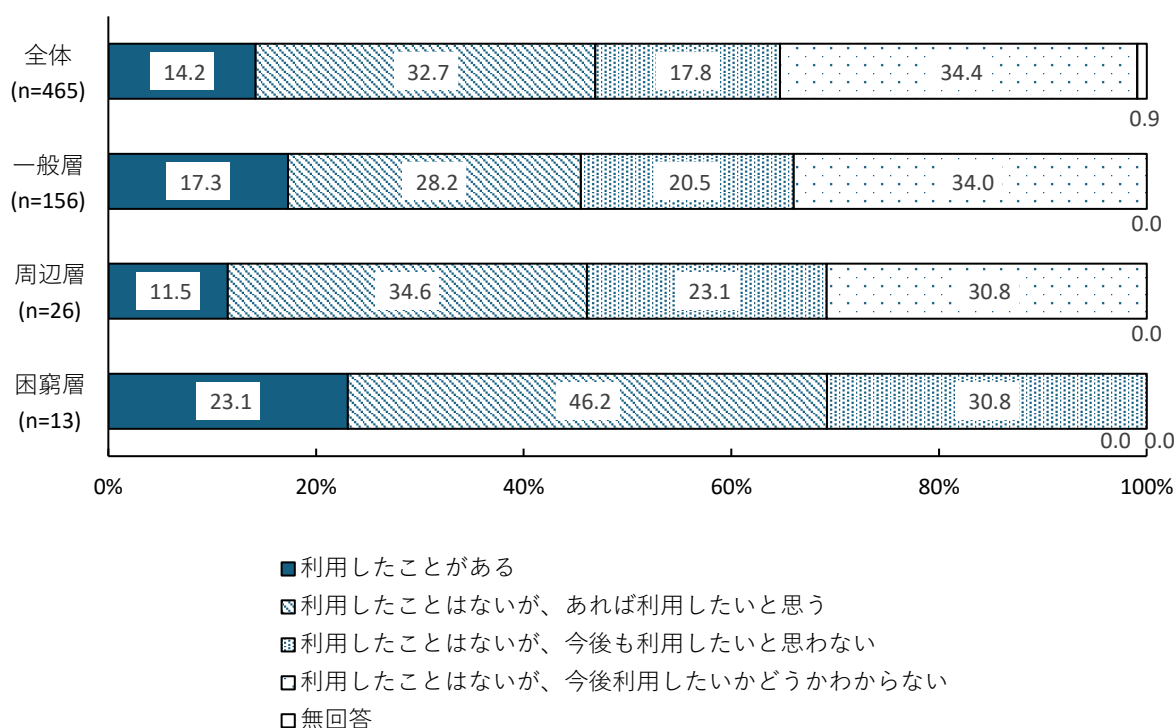


図表 相談しない理由(小5・中2相当年齢の児童)【複数回答】

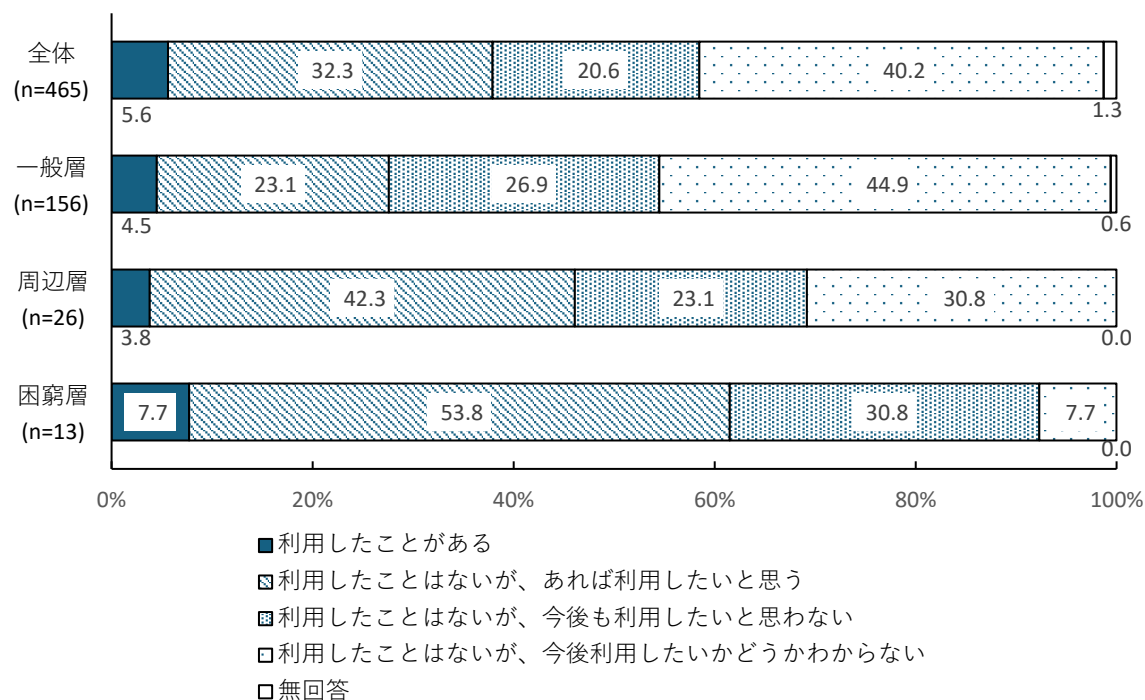


⑥ 悩みの相談などできる居場所として、「こども食堂」については「利用したことがある」が14.2%、「利用したことはないが、あれば利用したいと思う」が32.7%であった。「勉強を無料でみてくれる場所」については「利用したことがある」が5.6%、「利用したことはないが、あれば利用したいと思う」が32.3%であった。「なやみなどを相談できる場所」については「利用したことがある」が6.0%、「利用したことはないが、あれば利用したいと思う」が16.1%であった。なお、これらの居場所は、所得等の水準別において、「一般層」よりも「周辺層」及び「困窮層」の方が利用希望が高い傾向がある。【問40(2)(3)(4)】

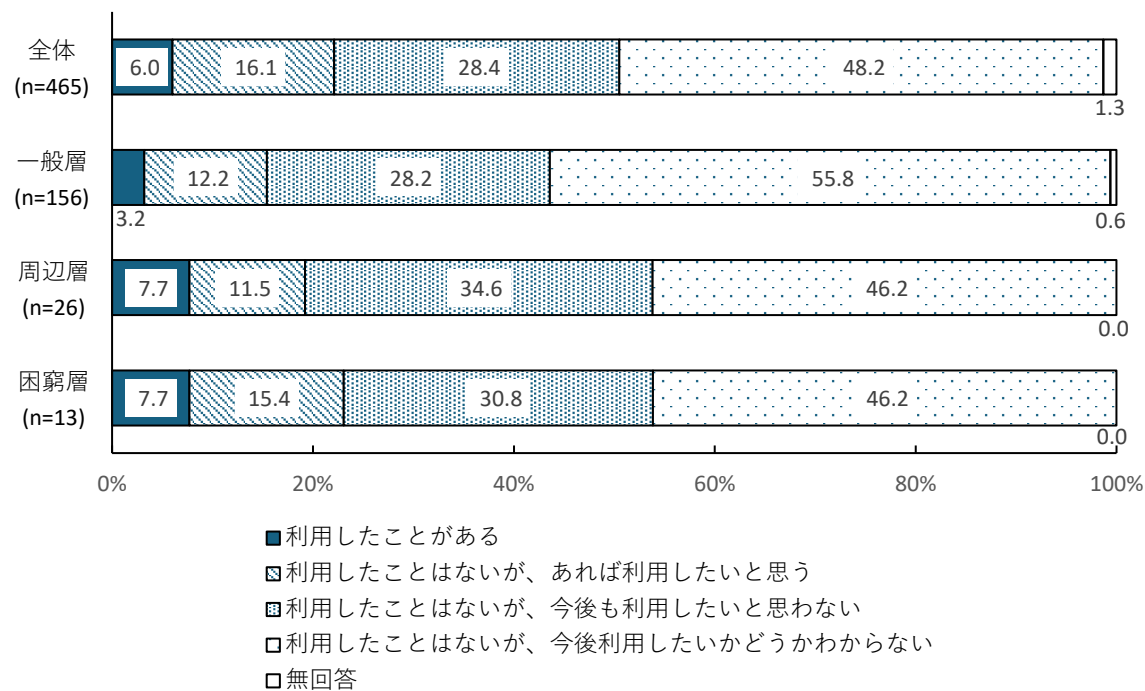
図表 ご飯を無料で、または安く食べることができる場所(こども食堂など)の利用希望
(小5・中2相当年齢の児童)【単数回答】



図表 勉強を無料でみてくれる場所の利用状況と利用希望
(小5・中2相当年齢の児童)【単数回答】

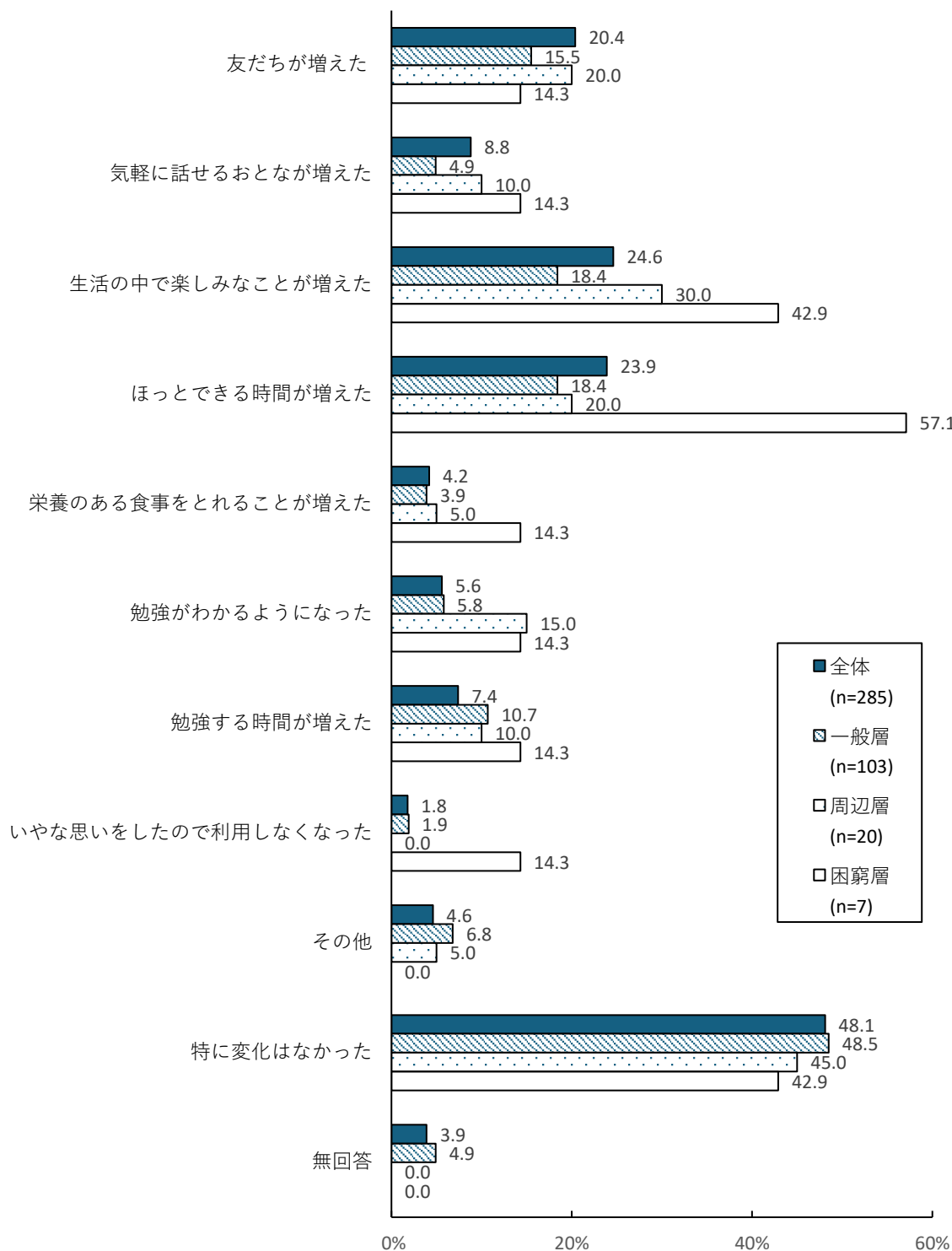


図表 なやみなど相談できる場所の利用状況と利用希望
(小5・中2相当年齢の児童)【単数回答】



- ⑦ 悩みの相談などできる居場所を利用することによる自身の変化については、「特に変化がなかった」と回答した割合が約半数ある一方、「生活の中で楽しみなことが増えた」が24.6%、「ほっとできる時間が増えた」が23.9%、「友だちが増えた」が20.4%となっている。【問41】

図表 居場所の利用による自身の変化(小5・中2相当年齢の児童)【複数回答】



(6)こどもの権利について

- ① 「こどもの権利」について知っている割合は、全体で、「よく知っている」が 13.1%、「少し知っている」が 23.4%、「聞いたことはある」が 26.5%、「知らない」が 36.3%となっている。【問42】

図表 こどもの権利の認知度(小5・中2相当年齢の児童)【単数回答】

